

国見町赤十字奉仕団による活動の紹介

国見町の紹介

国見町は、福島県の最北端に位置し、北は宮城県白石市と接している、東は阿武隈川を挟んで梁川町、南は桑折町と隣接し、信達盆地の肥沃な土地に恵まれた町です。
(国見町Webページより抜粋 <http://www.town.kunimi.fukushima.jp/index.html>)

国見町の被害

市街地など広範囲にわたり建物が倒壊し、地震動と液状化により役場庁舎が使用不能になったり、町内各地区で道路陥没が発生するなど大きな被害となりました。
町内には、国見町の被災者と、福島第一原発事故による放射線の影響で飯館村から避難している住民のための仮設住宅が、4ヶ所に設置されています。(2015年9月末現在)

国見町赤十字奉仕団の活動

国見町赤十字奉仕団は、東日本大震災および福島第一原発事故の被災者に対して、福島県内において最も活発に活動している奉仕団の一つです。活動の内容は多岐にわたっていますが、最も多いのは「つるし雛作り」です。他にも、ちまき作り、柏餅作り、人形作りなどを行っています。



出典：国見町Webページより

【つるし雛作り】(活動報告からの抜粋)

2013年4月に飯館村からの避難者の方が入居する上野台仮設住宅において、招き猫のつるし雛作りを行いました。招き猫は作成に時間を要するため2回に分けて行うことにしました。作成に取り掛かると皆さん楽しくどんどん縫い始め、途中お茶を飲みながら楽しくお話をし、一層のコミュニケーションを図ることができました。5月に続きを行い完成することができました。皆さん自分で作り上げた招き猫に満足した様子でした。



2012年6月、ちまき作りを行う、飯館村の避難者の皆さんと、国見町赤十字奉仕団の皆さん。(国見町観月台文化センター)



完成した招き猫を手に。上野台仮設住宅の入居者の皆さんと、国見町赤十字奉仕団の皆さん。

